

## 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	境港市立上道小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	20
児童数	54	35	45	50	51	45	3	283	

## 研究の概要

## 1. 研究主題（テーマ）・・・平成15年度

自ら考え、表現し合いながら、力を合わせて解決していく子ども、  
強くたくましく生きようとする子どもの育成  
—— 主体的に、楽しく活動する算数・理科の学習を通して ——

## 2. 研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

3年生～6年生算数 3年生～6年生理科（学力格差の是正を図る）

## (2) 年次ごとの計画

## 平成14年度

- テーマ 自ら考え、自らの力で解決していく子ども、  
よりたくましく生きようとする子どもの育成  
—— 主体的に、楽しく活動する算数・理科の学習を通して ——
- 研究の見通し TT指導や少人数指導を含むフロンティアスクール事業の研究・実践に取り組み、児童の興味・関心などに応じた指導形態を工夫しながら、個を生かす指導をすることにより、児童が成就感をもち、意欲的に学習に取り組み、学力の向上が図られるであろう。
- 研究の内容・方法
- 指導方法の工夫・改善
- ・ 教員の得意分野を生かした指導体制の工夫。
  - ・ 客観的で具体的な評価規準の設定。 ・ 評価と指導の一体化。
- 個に応じた指導の工夫
- ・ 学習を振り返る場の確保と、自己評価の試み。
  - ・ 児童一人一人のきめ細かな評価と指導。 ・ 評価を生かす工夫。
  - ・ 少人数指導やTT学習など、教科・単元による学習形態の工夫。
  - ・ 補充・発展学習等による個に応じた学力の定着。
  - ・ 個に応じた指導のための教材の開発や身近な自然を生かした教材化の工夫。
- より確かな問題解決能力の育成
- ・ 学び方の確立および、より主体的な学習態度の育成。
  - ・ 一人一人が主体的に問題解決を行い、科学的な見方や考え方を身につけることができるような指導計画や学習過程の工夫。
- 実態把握 ・ 意識調査、実態調査の実施、よりきめ細かな指導への活用。
- 地域・家庭との連携
- ・ 学校の取り組みについての情報発信や地域・家庭の理解・協力の獲得。

**平成15年度** 確かな学力を身につけていくには、教育活動全般における『表現力の育成』が必要不可欠、且つ急務であると判断し、当初、16年度に予定していたテーマおよび研究内容を、この15年度の半ばから研究内容に加えていくこととした。

- テーマ 自ら考え、表現し合いながら、力を合わせて解決していく子ども、  
強くたくましく生きようとする子どもの育成  
—— 主体的に、楽しく活動する算数・理科の学習を通して ——
- 研究の見通し TT指導や少人数指導に加え、一人一人の思いや意欲をこれまで以上に大切にしたいきめ細かな指導に心がけ、さらには個々の児童に表現する場を数多く設定することにより、課題解決に至る過程や考えを適切な方法によって表現でき、お互いの思いを共有し合うことができれば、より多くの『知』を自らの中に構築し、学力が一層高まるであろう。
- 研究の内容・方法
- 指導方法の工夫・改善
- ・ 個々の児童への様々な形での表現する場の確保と表現力の定着。
  - ・ より客観的で具体的な評価規準の設定および自己評価の工夫。
  - ・ 評価と指導の一体化。(評価をさらに生かした指導の工夫。)
- 個に応じた指導の工夫
- ・ 実験の多様化など、児童一人一人の思いや意欲を大切にしたい授業の展開。
  - ・ 学習を振り返る場の確保。 ・ 児童一人一人のきめ細かな評価と指導。
  - ・ 少人数指導やTT指導など、教科・単元による学習形態の工夫およびTT指導から少人数指導への展開。
  - ・ 補充、発展学習等による、個に応じた学力の定着。
  - ・ 個に応じた指導のための教材の開発や身近な自然を生かした教材化の工夫。
- より確かな問題解決能力の育成
- ・ 考える力をつけていく学び方の確立および、より主体的な学習態度の育成。
  - ・ 課題解決に至る過程や考えを、適切な方法によって表現する工夫。
  - ・ お互いの思いを共有し合う場の設定。
- 実態把握 ・ 児童の実態把握およびそれぞれの課題意識に即した指導の工夫。
- 地域・家庭との連携
- ・ 学校の取り組みについての情報発信や、地域・家庭の理解・協力の獲得。

**平成16年度**

- テーマ 自ら考え、表現し合いながら、力を合わせて解決していく子ども、  
強くたくましく生きようとする子どもの育成  
—— 主体的に、楽しく活動する算数・理科の学習を通して ——
- 研究の見通し TT指導や少人数指導に加え、一人一人の思いや意欲をこれまで以上に大切にしたいきめ細かな指導に心がけ、さらには個々の児童に表現する場を数多く設定することにより、課題解決に至る過程や考えを適切な方法によって表現でき、お互いの思いを共有し合うことができれば、より多くの『知』を自らの中に構築し、学力が一層高まるであろう。
- さらに理科については、自然現象についての『きまりを学ぶ』のではなく、

『きまりを創り上げていく』力が求められていることから、次のテーマを加えて研究を進めていくこととする。

平成16年度 理科 研究テーマ

『豊かに感じ、共に考え、学びを創る子どもの育成』

——— 出あい、ふれ合いを大切に———

平成16年度 理科 研究仮説

自然の事物・現象に感動を覚え、疑問を感じ、推論するなどの活動を通して、また、子どもたちが試行錯誤を繰り返し、発見する喜びや創る喜びなどを体験することを通して、それを表現し合い、共に共有し合うことができれば、子どもたち自身の手で科学的に妥当な知を創り上げていくことができるであろう。

### ○研究の内容・方法

ここでは、15年度の『研究の内容・方法』に追加するものを載せることとする。

指導方法の工夫・改善

- ・ 少人数指導における担任と担当者とのより綿密な情報交換および適切な評価。

個に応じた指導の工夫

- ・ 多様な実験や単元の内容に応じた課題別コースなど、児童一人一人の思いや意欲をこれまで以上に大切にされた授業の展開。

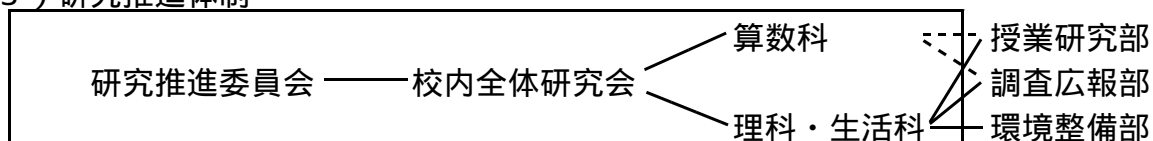
地域・家庭との連携

- ・ 引き続き、学校の取り組みについての情報発信や、地域・家庭のさらなる理解・協力の獲得。また、児童や家庭からの声、思いに答える努力。

理科 研究内容（付加）

- ・ 生活と結びつけて考えることができる導入の仕方の工夫。
- ・ 単元内容の見直しと、思考の流れに沿った単元構成への組み替え。
- ・ 思考を具体化する『ものづくり』の積極的な取り入れ。
- ・ ビオトープ等、環境面での見直し。
- ・ コンピュータを生かした学習のあり方の研究。

### （3）研究推進体制



・ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

算数 少人数指導のよさを生かし、習熟度別指導できめ細かな指導に努めた。また、評価基準の作成や自己評価方法の工夫により、指導と評価の一体化を図った。さらに、表現力を「伝え合う力」としてとらえ、授業の中で練り合う場や時間の設定に心がけた。実態調査の結果、「算数が好き」と答えた児童は8割であった。意欲的に学習に取り組んでいる子が多く、基礎・基本も確実に定着してきているようである。

理科 TT指導においては、昨年と比べて学級担任をT<sub>1</sub>として指導していく単元を増やし、指導力の向上を図った。また、児童の思いを大切に、可能な限り自

分の立てた仮説にもとづいて実験を行えるようにした。追求活動（おもに少人数指導で対応）の多様化、また、実験装置や図、表など、様々な資料を用いて説明（表現）する場を設けることで、「知」を共有することができるようになってきている。その結果、「自分の考えた方法で追求できる」「いろいろな方法で確かめることができ、その結果がどうだったかを教え合える」等の理由で、これまでと比べ理科を楽しんでいる児童が5%増えた。この数値は、伸びとしては低い、調査した学級の場合、楽しくないと感じていた8%の児童が全員楽しい、またはとても楽しいとしていたことは、大変好ましい傾向であると感じた。何よりも学習に対して主体的に取り組めるようになってきたことが一番の成果である。

## 2. 今後の課題

**算数** 習熟度別学習ばかりではなく、単元によってT・T指導・課題別学習など指導形態を工夫し、より効果的な指導方法を研究していきたい。また、「考える力」を育てることにより、お互いの思いを共有し、練り合う学習集団をめざしたい。さらに、発展的な学習を取り入れ、基礎・基本のさらなる定着を図り、自分たちの生活に返していく学習となるよう努めたい。

**理科** 個々の児童が自分の課題を設定し、主体的に課題解決に向かって取り組めるようになってきているとは言え、一部の学年であり、まだまだ表現の仕方も乏しいというのが実情である。より生活に結びついた導入の仕方を心がけたり、ものづくりを積極的に取り入れたりするなど、意欲をもって学習に向かう手だてを考えていきたい。また、思考の流れに沿うよう単元の構成を見直すことで、科学的なものの見方や考え方がスムーズにできるようになればと考えている。

### ・学力等把握のための学校としての取り組み

単元前後のプリントによる思考、技能、知識面の調査	算数・理科（単元毎）
学習状況等のアンケートにより、児童の意欲・関心の調査	算数・理科（年2回）
参考：鳥取県学力診断テストの実施	算数（年1回）
参考：基礎学力調査の実施	算数・理科（年1回）

### ・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・説明会（実践の取り組みについて）保護者向け 4月27日 会場・・・上道小学校  
内容 「研究の取り組みについて」の説明と協力の要請

・授業研究会（理科第6学年） 2月17日実施予定 会場・・・上道小学校

指導助言 兵庫教育大学学校教育学部 教授 松本伸示 先生

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下  7～12学級  13～18学級  19～24学級  25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
一部教科担任制  その他
- 【研究教科】 国語  社会  算数  理科  生活  
音楽  図画工作  家庭  体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無